

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第53回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：2025(令和7)年12月7日(日)

開催場所：ソニックシティ

テーマ：ホップステップジャンプ

サブテーマ：～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～



～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～

演題・抄録の締め切りについて

向暑の候、日ごとに暑さが増してまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

第53回埼玉県医学検査学会・実行委員会で学術部を担当しております、自治医科大学附属さいたま医療センターの細田健太と申します。

学会の演題、抄録の受付は5月1日(木)より開始しており、締め切りは7月18日(金)となっております。早いもので残り約1か月、折り返し地点を迎えました。既にエントリーしていただいている方々もありますが、これからエントリーされる方やエントリーを迷っている方もいらっしゃると思います。発表経験がない方や一歩を踏み出せずに躊躇されている方も、ぜひ第53回埼玉県医学検査学会にエントリーをしてみたいかがでしょうか。埼玉県医学検査学会では初めての発表を経験する技師も多く、先輩技師の方々が温かく見守り、指導してくださる場もあります。特に今回の学会テーマは「ホップ ステップ ジャンプ」、サブテーマが「～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～」となっております。未来の成長した自分に向けてまずはホップをしてみませんか。学生からベテラン技師の方々まで、多数のエントリーを実行委員一同、心よりお待ちしております。

また、学会テーマには、学会参加を通じて得た知識や技術を活かし、さらにステップアップ、ジャンプアップしていただきたいという願いが込められています。現在、実行委員一同、様々な企画の実現に向け、尽力しております。詳細に関しましては、改めてお知らせいたしますが、気になる企画がございましたら、ぜひとも学会へと足を運んでいただき、ステップアップ、ジャンプアップに役立てていただければと思っております。

12月7日(日)の第53回埼玉県医学検査学会では会場皆様にお会いできますことを楽しみにしております。

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 学術部 細田健太)

私と学会

第53回埼玉県医学検査学会・実行委員会学術部を担当しております、さいたま赤十字病院の銅山雄太と申します。

「学会」という言葉を聞いて、皆さんはどのような印象を受けるでしょうか。私はこれまで、様々な形で学会に関わってきました。初めて学会に参加したのは、学生時代のことです。そのときは、

普段着慣れないスーツに身を包み、教授に連れられて会場に足を踏み入れました。ドキドキしつつもワクワクした気持ちで、難しい講演を聴講した記憶が鮮明に残っています。また、社会人になり、初めて学会に演者として参加した際の経験も、忘れることができません。題材の探し方、演題登録の手順、抄録の書き方、そしてパワーポイントの作成方法など、わからないことばかりで不安な気持ちでした。しかし、職場の先輩方にご指導いただきながら準備を進めたことで、無事に発表を終えた際の達成感は格別でした。さらに、埼玉県臨床検査技師会・青年部委員として活動していたときには、学会企画の講師としてお話をさせていただき貴重な経験も得ることができました。このように、学会を通じて多くの経験を積み、臨床検査技師として、また社会人としてスキルアップを実感しています。特に演者として参加した経験が、自分自身の成長に大きく寄与したと感じています。

学会発表は、日常の業務では得られない様々な経験を積むことができる貴重な機会です。ぜひ皆様も学会発表に挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 学術部 銅山雄太)



(写真：実行委員会の様子)



研究班研修会報告

テーマ 令和6年度 埼玉県医師会臨床検査精度管理調査
画像サーベイ 報告会

主 催 生理検査研究班

実施日時：2025年4月24日 18時30分～21時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：心電図・呼吸機能

講 師 1：工藤 淳子（学校法人北里研究所 北里大学メディカルセンター）

講 師 1：南雲 涼太（かわぐち心臓呼吸器病院）

講演 2：脳波

講師 2：福地 聡子（医療法人社団武蔵野会 TMGあさか医療センター）

講演 3：神経伝導速度

講 師 3：新井 雅人（埼玉医科大学総合医療センター 中央検査部）

講 演 4：心臟超音波検査

講 師 4：南雲 涼太（かわぐち心臓呼吸器病院）

講 演 5：腹部超音波・甲状腺超音波

講師 5：石丸 直（さいたま赤十字病院）

講師 5：間中 樹里（上尾中央医科グループ八潮中央総合病院）

講演 6：乳腺超音波

講師 6：横尾 愛（川口市立医療センター）

講演 7：血管超音波

講師 7：野村 和弘（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員32名

出席した研究班班員：南雲涼太 工藤淳子 横尾愛 新井雅人 野村和弘 間中樹里
島内一輝 草間冬子

研修内容の概要・感想など

令和6年度に実施した「埼玉県医師会臨床検査精度管理調査 生理部門 画像サーベイ」について結果報告および解説をおこなった。画像サーベイは令和5年度より開始し、昨年度で2年目となった。設問数25問の内訳は心電図検査6問、呼吸機能検査2問、脳波検査3問、神経伝導速度検査2問、心臓超音波検査2問、腹部超音波検査4問、体表超音波検査4問、血管超音波検査2問としている。サーベイには110施設の参加があり、施設ごとに評価がおこなわれた。埼玉県医師会主催の報告会では各施設の評価を主に報告をおこなっている。設問ごとの詳細な解説をおこなうことは時間の都合上困難であるため、本研修会を解説の場とした。

解説では設問のポイントのみならずガイドラインの解説、鑑別疾患の所見や他サーベイの傾向など、参加施設に配布された報告書以上に深掘りした内容の解説がおこなわれた。作問者から、作問の意図などを聞くことができるのもこのような研修会の利点であると感じた。

画像サーベイは各施設の精度管理業務に寄与することを目的におこなわれている。評価対象となった24問の設問は正答率80%以上で多くは典型的な検査画像、症例から出題されている。不正解となってしまった問題についてはそのままにせず、このような研修会の場を利用し、振り返ってもらい、日常の検査に活かしてほしい。

（文責：南雲涼太）

テーマ 令和6年度埼玉県・埼玉医師会臨床検査精度管理事業報告（血液）

主催 血液検査研究班

実施日時：2025年4月25日 19時00分～20時30分

会場：RaiBoC Hall 市民会館 おおみや 集会室1 教科・点数：基礎教科－20点

講演 1：フォトサーベイ回答・解説

講師 1：堀口 大介（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 2：日常で遭遇しうる症例紹介 ～血液検査編～

講師 2：山崎 淳也（株式会社TLC戸田中央臨床検査研究所）

講演 3：日常で遭遇しうる症例紹介 ～凝固検査編～

講師 3：島田 崇史（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員20名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 吉澤悟 加藤鉄平 石田沙妃
島田崇史 窪田勝己 山崎淳也

研修内容の概要・感想など

今年度最初の研修会「令和6年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告」および「日常で遭遇しうる症例紹介～血液検査編～」 「日常で遭遇しうる症例紹介～凝固検査編～」を開催した。

講演1では、堀口氏によりフォトサーベイの回答・解説が行われた。今回の症例はMDSで、設問は5問あり、それぞれの回答の集計結果と共にWHO分類第5版におけるMDSの変更点を踏まえた病型分類、形態学的異形成の分類について解説があった。今回の細胞は骨髓芽球のような幼若細胞から、顆粒消失を伴う好中球などのMDSに関連深い細胞像などが選ばれている。講

演では、日本検査血液学会より発行されている顆粒球系・赤芽球系の連続分化画像を用いながら初級者にもわかりやすく細胞形態の特徴について説明があった。

講演2では、山崎氏より各細胞の基準値と臨床的意義、実際の症例をもとにデータの見方と考え方について講演が行われた。症例問題ではEDTAによる血小板数の偽低値、寒冷凝集、反応性リンパ球増加による破壊細胞の出現、白血病を取り上げ、対応と考え方について解説があり、日常業務にも役立つ内容であった。

講演3では、島田氏より凝固検査検体取り扱いに関するコンセンサスと採血による凝固検査への影響、実際に遭遇した症例をもとに検査値の考え方について話が合った。凝固検査では測定前プロセスが検査値に大きく影響を与えるため、採血手技や検体性状の確認など注意する必要がある。取り上げられた症例は凝固検体による異常値、フィブリン製剤使用による検査値の変化で、検査前の性状確認と検査値を見る際の患者情報の確認は重要であることを改めて認識する講演であった。

(文責：加藤鉄平)

テーマ 血液検査の面白さを追求しよう!! 骨髓像の見方、考え方 part1

主催 血液検査研究班

実施日時：2025年5月2日 19時00分～21時00分

会 場：RaiBoC Hall 市民会館 おおみや 集会室1 教科・点数：専門教科ー20点

講 師：大畑 雅彦（ベックマン・コールター株式会社）

参加人数：会員41名 賛助会員6名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 吉澤悟 島田崇史 窪田勝己
山崎淳也

研修内容の概要・感想など

「血液検査の面白さを追求しよう!」というテーマで症例から細胞の気づきについて大畑氏に講演していただいた。症例紹介ではパルボウイルスB19感染から赤芽球癆を発症した患者の紹介、赤芽球癆の診断基準からパルボウイルスB19感染の所見を知っておくことにより検査値から疾患の推測が可能となり、臨床検査技師から医師へ精査に必要な追加検査の提案を積極的に行うことの重要性を再認識することができた。また、血液検査領域のみに限定された知識を保有するだけでは検査値の深い理解が得られず、他分野の検査知識も臆せず学ぶことにより色々な気づきを得られる臨床検査技師に成長することができるとの説明があり、新入職者や血液検査初心者およびそういった方々の教育に携わる年代の方々にもきっかけが得られるような内容であった。

次のセクションでは症例からディスカッション形式で設問が提示された。設問1～4では多発性骨髓腫における同一患者の標本から観察場所の重要性や、細胞の均一性・不均一性時の治療効果判定推測、大小不同の形質細胞比率におけるCD20陽性率の変化などの解説があり、血液標本観察時に非常に役に立つ内容であった。設問5では芽球細胞や核小体染色の話から核小体に似たカップ様構造の存在を知り、見た目だけでは分からない核小体の判別方法の解説があった。設問6では過分葉好中球と破碎赤血球から巨赤芽球性貧血とpseudo-TTPの繋がりを知り、改めて破碎赤血球の意義を感じる内容であった。設問7では巨核球観察時の顆粒異常は細胞質変化に注目をするという解説があり、メイ・ヘグリン異常やFechtner症候群の疾患との繋がりと地域性を学ぶことができる内容であった。

まとめとして血液細胞を判別する臨床検査技師にとって経験を問わず、とても心に残る講演であった。その中で私が印象に残っている言葉は「骨髓は細胞を作る工場」という言葉で、大畑氏は最初に末梢血ではなく骨髓血から教育を行うという。その点には非常に驚いたがとても理にかなっている教育方法ではないかとお話を聞いて思い、今後の教育についても考えさせられた。

(文責：吉澤悟)

テーマ 令和6年度埼玉県・埼玉県医師会精度管理事業報告と解説(微生物) および2025年CLSIドキュメントの変更点について

主催 微生物検査研究班

実施日時：2025年4月25日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 603会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：フォトサーベイ

講 師 1：伊吹 早紀（地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター）

講 演 2：同定検査

講 師 2：大塚 聖也（埼玉医科大学総合医療センター中央検査部）

講 演 3：薬剤感受性検査

講 師 3：今井 芙美（地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立がんセンター）

講 演 4：グラム染色

講 師 4：伊波 嵩之（さいたま赤十字病院）

講 演 5：CLSI変更点について

講 師 5：横山 翼（ベックマン・コールター株式会社）

参加人数：会員40名 賛助会員7名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井芙美 岸井こずゑ 佐々木真一 伊波嵩之

渡辺駿介 大塚聖也 伊吹早紀

研修内容の概要・感想など

今年度最初の研修会「令和6年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説(微生物)および2025年CLSIドキュメントの変更点について」をテーマに開催した。精度管理事業について各担当より、結果報告と解説をおこなった。2025年CLSIドキュメントの変更点については横山氏より解説があった。

フォトサーベイでは、*Salmonella Enteritidis*を出題した。本菌は、国内におけるサルモネラ腸炎の原因菌であり、最も検出頻度の高い菌種である。*Salmonella enterica* subsp. *enterica*の中では、三類感染症に指定されている*S. Typhi*と*S. Paratyphi A*との鑑別が特に重要であるが、生化学的性状においては、硫化水素産生の有無と、リジン脱炭酸能、クエン酸塩利用能により鑑別することができる。同定検査では、*Edwardsiella tarda*を出題した。本菌は、肝硬変や糖尿病などの免疫能低下者では血流感染症や重症型壊死性筋膜炎に至ることがあるので必ず同定できるようにしていただきたい。薬剤感受性検査では、*Haemophilus influenzae* ATCC49247 (BLNAR)を出題した。BLNARはβ-ラクタマーゼ陰性Ampicilin耐性*H. influenzae*の略称であり、判定にはβ-ラクタマーゼ試験の結果を確認する必要がある。耐性菌判定方法や耐性菌の判定を「実施せず」と回答した施設は、耐性菌判定まで実施できる検査体制を整えていただきたい。グラム染色では、*Candida albicans*を出題した。細菌と真菌では使用する抗菌薬が異なるためグラム染色の誤報告は治療の失敗や不適切な抗菌薬使用に繋がるため必ず判定できるようにしていただきたい。2025年CLSIドキュメントの主な変更点は、*Burkholderia cepacia* complexの判定基準の全削除、*Acinetobacter* spp.のドキシサイクリンおよびテトラサイクリンのブレイクポイント削除とミノサイクリンブレイクポイント改訂などがあった。さらに、*S. aureus* complex以外のブドウ球菌を指すSOSA (Staphylococci other than *Staphylococcus aureus*) が新規用語として登場したと紹介があった。CLSIドキュメントはCLSIホームページから無料で閲覧することができる。詳細な変更点についてホームページからご確認いただきたい。

(文責：小棚雅寛)

**令和7年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第2回 理事会議事録**

日 時：令和7年5月8日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 阿部
西田 三木 佐瀬 網野 伊藤 藤原
塚原 神嶋 笛木 長谷川 神戸
小林 工藤 久保田 長岡 原 土田
(監事)遠藤

欠 席：(監事)細谷

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和7年4月10日～令和7年5月7日)

4月10日(木)令和7年度第1回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
阿部、三木、佐瀬、網野、伊藤、
藤原、塚原、神嶋、笛木、長谷川、
神戸、小林、工藤、長岡、久保田、
原、土田、遠藤

4月15日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、藤原

4月17日(木)令和6年度監査：

松岡、猪浦、山口、濱本、神戸、
小林、工藤、遠藤、細谷

4月20日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県034)：塚原、佐瀬、笛木、伊藤、
藤原、西田、猪浦

4月23日(水)事業部会議：山口、塚原、神嶋、
長谷川、笛木

4月24日(木)～26日(土)：令和7年度表彰選考委員会：松岡、猪浦、山口、濱本、
阿部

4月26日(土)第1回日臨技理事会：猪浦

5月2日(金)検査室管理運営委員会会議：
山口、長谷川

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 4月24日(木)～26日(土)：令和7年度表彰選考委員会(Web会議)を開催した。

2) 4月24日(木)令和7・8年度さいたま市衛生検査精度管理専門委員を推薦した。

2 総務部

1) 4月20日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県034)が開催された。(別紙資料1)

2) 5月15日(火)だより第552号発行予定

3) 5月18日(日)開催予定のタスクシフト指定講習会は中止となった。

4) 6月8日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県035)を開催予定。
：猪浦、濱本、小林、藤原、土田、原、
佐瀬(責任者)

3 事業部

1) 4月23日(水)事業部会議を開催した。

(別紙資料2)

2) わらび健康まつりについて「参加する」と回答した。(別紙資料3)

3) 5月2日(金)検査室管理運営委員会会議を開催した。

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) 4月17日(木)令和6年度監査を行った。

(別紙資料4-1.2)

2) 令和7年度正会員費3,493名17,465,000円、
入会金26名26,000円、再入会金5名5,000
円、合計17,496,000円の入金があった。

3) 石井印刷に埼臨技だより551号Web版12P、
59,400円を支払った。

4) H&Tに会員管理システム年間保守費用と
して220,000円を支払った。

5) 極東製薬工業株式会社から疑似便の特許権
等の譲渡対価として17,675円の入金があっ
た。

7 精度管理委員会 特になし

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技

1) 4月26日(土)第1回日臨技理事会が開催さ
れた。(別紙資料5)

11 第53回埼玉県医学検査学会

1) 4月15日(火)第6回実行委員会が開催され
た。(別紙資料6)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

1) 会員動向(令和7年度分)

令和7年5月1日現在

- 会員数 3,638名[令和6年度会員数3,612名]
(新入会員100名)
賛助会員 45社[令和6年度72社]
承認された。
- 2) 令和7年度の埼玉県公衆衛生事業功労者表彰の推薦について (別紙資料7)
上記の件について、松岡会長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 2 総務部 特になし
3 事業部 特になし
4 学術部
- 1) 病理検査研究班班員の退任と追加について
退 任：二ツ橋雄一氏 (PCLジャパン病理・細胞診センター)
退任日：令和7年4月30日
追 加：石川勇貴氏 (PCLジャパン病理・細胞診センター) (別紙資料8)
令和7年5月1日より委嘱
上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 5 精度保証部 特になし
6 会計部 特になし
7 精度管理委員会 特になし
8 第53回埼玉県医学検査学会
- 1) 学会HPのアクセス数の確認について
HPへのアクセス数把握のため、埼臨技HPサーバー (さくらインターネット) 側からのアクセス数確認が可能であれば定期的に確認したい。また、上記手順にて確認が困難な場合、無料のカウンターのソフトをビルダーにインストールして使用したい。
- 2) リアルタイムアンケート実施用に学会Googleアカウントを取得したい。

3) 埼臨技会長講演として、松岡会長にご講演いただきたい。

4) 市民公開講演での吹奏楽演奏について
現在調整中の県内高校に依頼状を送付したい。 (別紙資料9)

上記の件について、伊藤隆史学会担当理事より発言があり、審議の結果、3)に関しては松岡会長の承諾後、承認された。

1) は、埼臨技HPサーバーを用いてアクセス数の確認をする方向で進め、再度運用方法を確認することとした。2) のリアルタイムアンケートに関しては、使用目的を明確にしてから進めることとした。4) に関しては、講演の運用面、安全面、コスト面など検討する課題がまだあるため、再度実行委員会で検討することとした。また調整先の高校との交渉期限を決めて調整することとした。

9 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会
特になし

IV. 議題

- 1 事務局 特になし
2 総務部 特になし
3 事業部 特になし
4 学術部 特になし
5 精度保証部 特になし
6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

大阪万博が開催され、色々と話題になっているようですが、万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」として、生命の多様性と持続可能な未来社会を目指して活動していこうとしています。これからの自分に何ができるのか考えていくと・・・

“う～ん、なんだろう？”多様性って、様々なことを受け入れられるようなココロがいるのかなあ。持続可能な社会って、無駄を省くや再利用できるものを活用していくのがいいのかなあ。今の日常生活を見直す一つのきっかけとして「小さなことからコツコツと」を心がけて、広～く、深～く、穏やかな感情を持てるように頑張っていければと思います。休みが取れるなら、万博行ってみたいなあ～。

(伊藤 記)

